

社
SHA

楽
RAKU

神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。

Vol.55

2016/05

「県立川崎図書館の社史室って、よく聞くけれど、どんな感じだろう？」と気になっていた皆様に朗報です。県立川崎図書館のホームページにバーチャル「社史室」を開設しました。

社史室の書架の様子が感覚的にわかります。
5月6日OPEN、入口は下記のアドレスです。

とはいっても、新規のシステムを導入するとか、プログラムを開発したわけではないので、過度な期待はしないでください。社史室の書架を、ひと棚ずつ写真に撮って、トリミングして、書架のように配置しただけです。

バーチャル「社史室」を思いついたのは、数か月前でしたが、困難な条件があることに気が付きました。

社史室は狭いので、書架の間隔が60センチから70センチ程度しかありません。棚の横幅は約90センチあります。当方のアイテムは、ごく普通のコンパクトデジカメのみ。普通にカメラを構えても、距離がとれず、棚がそのまま収まらないのです。

そこで、本腰を据えて、4月初旬の蔵書点検期間の休館中に作業を進めることにしました。

悪条件を克服するため、技も編み出しました。

撮りたい書架の反対側の書架の本を何冊か抜き取り、そこにタイマーをかけた状態でカメラをセットし、シャッターを押します。数秒後に、うまく撮れているのかを確認。「ピンボケだ」「端が写っていない」「本から紐（しおり）が飛び出ている」などがあるたびに、撮り直していきます。

（裏面につづく）

バーチャル「社史室」開設です。

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/vshashi/index.htm>

(表面から続く)

このやり方以外にも、対面の書架の本を抜いて小さな隙間をつくり、向かい側から、カメラを持った手を突っ込んで撮影したりもしました。

こうして、社史室の公開書架のほぼ全てと、おもに1950年以前の社史が並んでいる書庫内の書架3連を撮影できました。

棚の写真は380枚に及びます。撮り終えた写真は、傾き調整、トリミング、明度の調整などをしていきます。職場のWindowsのパソコンに元から入っているソフトで簡単に処理しただけです。

さて、バーチャル社史室の使い方ですが、「社史室って、こんな感じなんだ」と、イメージしていたのが第一の目的です。いろいろな社史が並んでいる書架の様子を見るだけでも楽しいと思います。ただ、特定の社史を探している場合は、写真だけを見ても「背文字に会社名が書かれていない」「字が小さすぎて見にくい」などの理由で、よくわからないことも多いと思います。きつちりと社史の所在を調べるのには向いていません。

撮影時に貸出中のものや、撮影後に受け入れた社史も写っていないので、蔵書検索とあわせてご利用いただければと思います。

(科学情報課・高田)

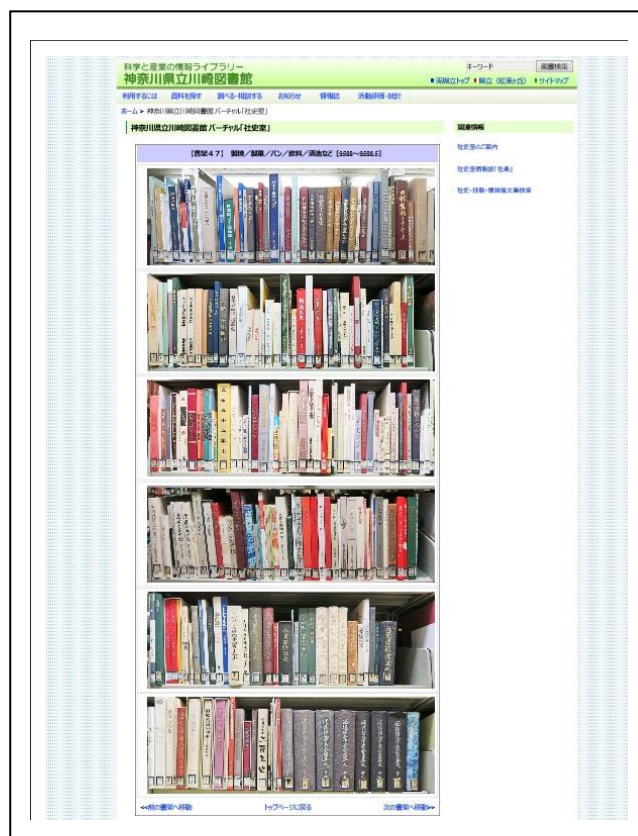
写真を撮りながら、感じたことですが、同じ業種なのに、違う分類に配架されているということがけっこうありました。

創業時の業種を参考に分類しているのですが、事業の変更によって現状とあわなくなった企業もあるでしょう。また、担当者の判断により分類が異なってしまった場合もあるようです。

バーチャル「社史室」でも、社史室にいらした際にも、ひとつの分類だけでなく、複数の分類を見ることがや、蔵書検索と組み合わせて探していただくことをおすすめします。

いずれ、分類の抜本的な見直しも必要になるかもしれませんが、少なくとも、数年先の事業だと思えます。

●
それにしても、書架の間隔が狭くて撮影が大変でした。新しい図書館であれば車椅子が通れるくらいの間隔はあるでしょうから、当館よりは簡単に撮影できますよ。(高)



▲ バーチャル「社史室」の画面です。
棚をクリックすると拡大して表示します。

●お問い合わせ先 神奈川県立川崎図書館 科学情報課

〒210-0011 川崎市川崎区富士見2-1-4 電話：044-233-4537

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>